2021年5月24日

2025年5月15日改定

日本地震工学会論文集編集委員会

# 執筆要領（英文論文テンプレート）改定のご案内と論文書式の確認のお願い

2021年5月に執筆要領（英文論文テンプレート）の改定を行いました．論文投稿の際はご確認ください．また，印刷用原稿を作成する際にも下記の項目を改めてチェック願います．

英語ネイティブスピーカー，ないし英文校正業者等による英文校正を実施している．

共著の場合，すべての著者が，英文を最後まで確認している．

## 著者欄

翻訳論文の題目は、オリジナルの和文論文の英文題目と同一とする．

著者名は，すべて「名，姓」の順とする．

複数著者の場合，最後の2名の氏名の間は andを用いる．

Non-Memberは記載不要．

E-mail：和文論文と違い，メールアドレスのみ記載．

所属機関名の後には，都道府県（州）名，国名を記載．

翻訳論文のABSTRACTは，原則として，オリジナルの和文論文の英文概要と一致させる．

Keywordsは各キーワードの先頭単語と固有名詞の語頭のみを大文字とする．

Keywordsが2行にわたる場合，コロン＋スペースの後ろで語頭の位置を揃える．

## 本文

11 ptのTimes New Romanフォントを使用（数式はCambria Mathなどのフォントも許容）．

全角フォントは半角フォントに置換．例：角度の単位° → °（海外の研究者が読むときに文字化けする可能性があるため）．

章見出し：章番号＋ピリオド＋タブ＋見出し．前に2行空行を挿入．後に1行空行を挿入．

本文中は単位の前にスペースを挿入（%と°はスペースの挿入なしも許容）．

SI単位系に従い，sec → s

Galは初出の箇所にcm/s2と同じ意味であることを説明．

カンマの後にスペースを挿入．

数式の =, ≠, ≈, ≤, ≥, +, −, ±, × などの記号は前後にスペースを挿入．

ハイフン“-”，マイナス記号“−”，emダッシュ“—” ，enダッシュ“–”を使い分ける． Gutenberg–Richter’s law, stress–strain curve, pp. 1–3はいずれもenダッシュ．

上付き文字の引用番号の書き方：　1,2) → 1), 2)　　1～3) → 1)–3)

文末のピリオドの後の引用番号はピリオドの前に移動．

文頭にはピリオドを付けて省略した語を書かない．例：Figure 1 shows ...

図はFig. 1, Figs. 1–3のように引用．ただし，文頭では省略しない．

式はEq. (1), Eqs. (1)–(3)のように引用．ただし，文頭では省略しない．

図表の前後に空白1行を挿入

複数の図を同一図番に配置する場合は，(a), (b), …と枝番号を付けてサブキャプションを設ける．図中などにサブキャプションの番号などを書き込むことは不可．

図・写真・表の左右には，文字を流し込むことは不可．

キャプションが複数行にわたる場合には，1行目のキャプションと行頭が揃うようにインデントする．

図・写真・表が左右の余白（25 mm）にかかるものは認められません．

数式の上下に空白1行を挿入

参考文献を著者名で引用する場合， 2名の場合は姓を，A and B，3名以上の場合は、A et al. のように記載する．原則として著者名の後に出版年の括弧書きをしない．

## 参考文献

著者名は姓＋カンマ＋イニシャル．例：Priestley, M. J. N.

複数著者の英文文献の引用については，最後の2名の氏名の間は andを用いる．andの前にカンマは不要．

題目の主要単語（前置詞と冠詞を除き）すべて先頭文字をキャピタライズする（ハイフンで連結された複合語の場合も，ハイフンの後の単語の先頭文字をキャピタライズする．例えばBi-linear → Bi-Linearのように）

参考文献のページ範囲はハイフンではなくenダッシュ“–”を使用．

Vol., No., pp.の後ろにスペースを挿入．例：Vol. 1, No. 2, pp. 3–5

Issue は、No.に改める．

URLにハイパーリンクは付けない．URLの前後にはスペースを入れる．閲覧日を記載．例：(last accessed on May 23, 2020)

書誌名は省略せず，キャピタライズ，イタリック体．

報告書や書籍などの引用頁範囲を明記しない場合は，全頁数を200 pp. のように記載する．

以上